

18パーセント増の積極型予算編成

町長施政方針



佐瀬哲司町長

3月定例町議会の冒頭、佐瀬町長は新年度の施政方針を明らかにしましたが、前年度比較で18パーセント増の積極型予算を編成、道路網の整備を中心に、住みよいまちづくりに取り組み意欲的な姿勢を示しました。

道路整備に最重点

平成2年度

公園整備にも一段と力注ぐ

平成元年を振り返ってみますと、『激動の80年代』の最後の年にふさわしく、国際情勢は歴史的転換期といつてよい激動の年でした。

このような世界動向の背景のなかで、国内的には好調な景気が続き、新年度の日本経済は、個人消費の伸びが前年度を上回り、設備投資も拡大を維持するなど、内需主導の好景気が見込まれ、昨年に近い成長率が期待されております。

一方、千葉県においては、『新しい時代を築く交通網の整備』をスローガンに、半島性から脱却し、『袋小路千葉県』の汚名を返上しようと計画された東京湾横断道路建設の起工式が昨年5月に行われ、3月中には木更津人工島の工事が着工になる運びであります。

この横断道路とつながる道路は、茂原・東金・横芝・成田を経由して筑波から浦和、横浜へと延び、その延長は270キロメートルという大規模自動車専用道路であり、完成後は、首都圏中央連絡道路として位置づけられております。

このように、重要施策として私たちの永年の夢でありました東京湾横断道路も、平成7年には開通することが確実になったわけであります。県におきましては、2月28日より県議会が開会になり、予算規模一兆八百六十億六千五百万円、前年比8・6%増という積極型の平成2年度一般会計予算が提案審議されております。

来春完成をめざす

—工業団地

横芝町においても昨年は東金有料道路II期の延長工事が始まり、この終点となる大総地区の桜前地区は、空港関連道路或いは大総新道と交差し、横芝町の交通の要となり、最も重要な拠点として位置づけられております。

2工場移転に

明るい見通し

—駅裏開発

また、民間の活力による役場東側の大型書店進出も、今まで水面下で動いていきましたが、いよいよ具体化し、近々のうちに着工の運びとなります。また、これに付随して、駅裏の開発も都市計画が諸般の事情で遅れてはおりますが、懸案のゼニス・パイプ・千葉窯業の2工場の移転問題も、明るい見通しとなってまいりました。この2工場の移転用地が